

見 学 会

——京葉線に乗って千葉のウォーターフロントを巡る——

遠 藤 幸 子

ボーッ、ボーッ、ボーッ。夕暮れ時に汽笛の音を耳にするようになって久しい。自動車専用船の出港の合図である。モータープールに整然と並べられたアコードやプレリウド。フロントガラスには、アムステルダム、ハンブルグといった行き先を表示する紙がはられている。

そういえば、最近とみに交通量がふえた。特にひどいのが朝のラッシュだ。住宅地の中を通る道路であるにもかかわらず、新設の工場や研究所に向かう車の列が続く。それだけではない。幕張メッセで人気の高いイベントが開催されている時は、車で外出しようということ自体無謀なのである。

ここまで読んで下さった方、筆者の居所がおわかりか。習志野市の埋立地に開発された住宅地の一角に住むようになって、はや10年。ここに引っ越してきた当初は、目に入るものといえば、さまざまな様式の住宅群だけであった。歴史のない町。主婦の立場でみても刺激の少なすぎる土地柄、そして地理学徒の目からみてさえそうであった。

ところが、冒頭でも少しふれたが、ここ10年間で千葉県臨海部は大きな変貌をとげ、景観的にも機能的にも、これまでとは異なる性格の地域として生まれかわりつつある。ディズニーランド・それをとりまくホテルやホール・ららぽーとやマリニピアなどの大規模ショッピングセンター・研究開発機能を有する事業所・幕張メッセ・本田技研や日産の船積基地など。これらはすべて京葉線の車窓から見るができる。ここは、工業地理学、都市地理学、流通地理学のフィールドとして興味深いさまざまなテーマを提供してくれる。お茶の水地理の見学会の場所の1つに加えていただけたらおもしろいかもしれないというのが、この見学会を思いついた動機である。

当日は残念なことに雨。おまけに日曜日とあって、見学可能な施設は極めて限られている。新木場駅に集合してから、舞浜、新習志野に途中下車し、終点の蘇我まで。当日の予定に合わせて、予行演習はしてあったものの、やはり30人を越える団体に対する配慮というものが欠けていたなど心の中で反省しつつ、とにかく千葉のウォーターフロントを概観していただくことに専念した。

今、とても残念に思っていることがある。前もって今回の見学会に関するアンケートを作成しておいて、当日配布し記入していただくわけにはいかなかったかと。案内者にとっては、参加して下さった方々の反応が気にかかるところであるが、今となつては、もはや情報を集めるのは困難であろう。案内者として事前の準備段階で勉強の機会は与えられたものの、やはり当口、多くの方々からさまざまな質問を受け、さらに多岐にわたる御批判やアドバイスを得られるよう、自ら配慮しておかなかったことが悔やまれる。貴重な機会をみすみすむだにしてしまった。勤務先の大学で、授業内容に関する質問や、見学会を実施した際には感想を書いてもらうことがあるが、いろいろと考えさせられる点が少なくない。ただし、それらは、あくまで学生が教師を意識して書いたものであることを考えれば、今回のような見学会で何か一言いただければ、今後の糧となったであろう。

最後におわびを申しておかねばならない。京葉線をできる限り効率よく利用したいとの案内者の勝手な思いこみから、恩師を初め、参加して下さった方々全員に、大変な御心痛をおかけしてしまった。通勤に京葉線を利用しているが、そのことが、今でもチラリと心をかすめるのである。

(22回生)